

# 民報あばしり

NO.878

2012. 8. 5

発行所

日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八西三  
四三三・四四五八  
F 四三三・四四五七

## 雷と暴風雨で被害続出!

31日午後2時すぎ、雷と暴風を伴った突然の豪雨が襲い、一部では降雹があり、樹木が倒れ、JR釧網線では一時運休になり、公道では交通に一部支障がでまし



写真・・錦町146付近の復旧現場

た。

この激しい雨は、本道付近を気圧の谷が通過し、上空に冷たい空気が入ったことが原因で10分間で25ミリという激しい雨量でした。

このため市内各所で浸水・冠水が多発し、市の土木センターを中心に対応に追われていました。農業関係では、二見ヶ岡周辺で大きな被害が発生し、小麦、ビート、ジャガイモにおよび、とくにデントコーンは真つ二つに割れるなど一部廃耕の恐れがある被害も確認されました。

共産党市議団は、暴風雨発生後、市内の浸水・冠水各所を見て回り、市の土木センターと連絡を取りながら被害地域の状況把握と復旧に全力を尽くしました。

## 原水協が被爆写真真展

原水爆禁止網走協議会は、7月27・28日の2日間にわたって、エコーセンターのロビー展示室で、被爆写真展を行いました。

27日、朝9時から原水協のメンバーや新日本婦人の会網走支部の会員が集まり、展示のための準備をしていましたが、展示する前の段階で、他の行事でエコーセンターに来ていた人たちが、真剣に見入って「ひどいやけど、かわいそうだねえ」「戦争はいやだね」など、原爆の悲惨さに交々感想を述べていました。

新日本婦人の会のコーナーでは、原発の設置場所や関連施設を日本地図の上

に記したものでやチェルノブイリの悲劇と福島原発事故を繰り返してはならないと伝えるDVDの放映がなされています。また、子どもたちに平和を伝えるための本を読んでもらおうと平和や原爆に関連する本が100冊置かれています。親子コーナーでは手作りの風車をお母さんが、子どもといっしょに作っている様子は何とも微笑ましいものでした。今年も多くの市民が、被爆写真展に来ていましたが、「このような取り組みは大事ですねと励ましの言葉もいただきました」と、主催者の原水協の方がい

## 松浦奮戦も

先日、地域をまわっていると、ある人がTPP協定を結んだら農林漁業をはじめ地域が壊れると聞く」と、質問してきました。

野田内閣を見ていると、言っていることは良く分かります。日米間には、日米安保条約という条約があつて、ここに日本政府がしがみついているため、アメリカという親分の言うことを何でも聞いている。そこには、日本の財界が利益を得る仕組みも含まれているため、日本政府は、アメリカと財界の利益のために政治生命をかけて働くようになっていくのです。

日本共産党は、この矛盾を解決する一番の方法は、日米安保条約を廃止することですと断言しています。どちらかの国が、廃棄を通告すると一年後に廃棄になりますから、早く実現したいです。

## いよいよ東奔西走

全市内の農地と道路・崖地などに大きな爪痕を残した今回の雷豪雨は大きな教訓を残しました。突然の雷と10分間で25ミリという暴風雨が襲う中、浸水・冠水の数箇所を見て回りましたが、決して予想外とは言えない防災上の弱点も垣間見ました。

ある地点では、降雨による排水升のグレッティングに樹木の葉が詰まり集水できなく冠水したり、排水量に比べて排水升が小さく、樹木の葉詰まりと重なって増水し、住宅の土台脇をえぐって畑へ冠水したり、道路に降った雨が、道路脇に排水溝がないため、舗装のくぼみに沿って上から下へ300メートルほど流れだし、樹木の葉詰まり排水升のある所で溜まって浸水、挙げれば切りがないほどの諸例を経験しました。

今迄にない気象条件だったのでは片付けず、この状態はオホーツク地域の気象状況からすると、6月9月の間はいつでも発生する条件があるので、今回見られた防災上の弱点を行政としてどう生かしていくのか問われています。

## 流水

関西電力は大飯原発3号機の稼働を開始し、4号機の稼働も準備しています。野田首相は自分の責任で稼働の許可をしたと述べましたが、その後原発が

活断層上にあることが明らかになり、再調査を指示しました。まさに無責任を絵に描いたように▼原発廃棄物に処理については、先述したようにノルウェーでは使用済み核燃料などの廃棄物を地下深く埋める技術を開発しています。しかし一番難しいのは十数年後の人間にどうゆう言葉で伝えるかということだそうです▼核廃棄物中のプルトニウム239は半減期が二万四千年、4分の一になつたのは四万八千年が1必要です。現在の科学では、この放射能を減らす方法は全くないというのが常識です。したがってそれを作り出すこと自体が問題となります▼ようやく首相官邸前での抗議活動が十七万人と、マスコミで伝えられるようになりましたが、その一方で福島原発で大事故を起こしたこの国で原発を輸出しようとしています。そのトップセールスマンが野田首相です。首相が原発の安全性を言わざるを得ない背景には、財界の強い圧力があります。それを許すか、許さないかで日本国の評価が変わります「子や孫の世代にどうゆう国を残すのか」それが今の私たちへの課題です▼今こそ「原発ノー」の運動を力強く進め、原発も核廃棄物も無い国づくりを進めましょう (K)